

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時：令和4年9月26日（月） 16：00～16：40

場所：福岡市役所本庁舎9階 特別会議室2

（ZOOM 併用によるハイブリッド開催）

出席者：評価委員 5名【松藤会長、久留副会長、福岡委員、村上委員、依田委員】

申請団体 1 団体

事務局 3 名

<申請事業の評価>

団体活動支援コース B の申請団体への質疑応答

（概要説明 5 分、質疑応答 10 分）

発言者	発言内容
委員	家庭から出る生ごみを減らしていくという考え方はとても良いと思う。コンポストや基材にかかる経費が計上されていないように思うが、野菜の土づくりに生ごみをどのように活かしていくのか、具体的に説明してほしい。
団体	ワークショップの際には、コンポストの基材などをお見せしつつ、分解の過程などを説明したいと考えている。また、近隣に野菜残さをいれた圃場がすでにあるので、参加者に直接見学してもらう予定である。また、野菜作りと生ごみの再利用を半々程度とし、楽しく参加いただきたいと考えている。
委員	直接野菜を畑にすきこみ、土づくりや野菜の栄養にする、という形をすでに実践されているということか。
団体	今年の春からお茶がらやコーヒーかすを乾燥させてすきこんだ畑を作り、野菜を育てているので、それを踏まえて、秋、冬の活動を実施していこうと考えている。
委員	団体の構成員の人数をお尋ねする。また参加する市民の方の数は何人くらいを想定しているのか。
団体	活動の中心メンバーは自分を含めて 6 人である。畑の管理は日々 2～3 人が行っている。月に 2 回、第 2、第 4 土曜日は会として活動している。イベントへの市民の参加人数は、1 回につき 15 名程度を想定している。
委員	団体のメンバーを除いて 15 名ということか。
団体	そのように想定している。西区が拠点であるため、近郊の方への告知を予定している。幼稚園、小学校などの小さなお子さんと、家庭ごみの減

	少ということで主婦層とを、半々程度の構成で実施できればと考えている。
委員	農場の規模などにより制限はあると思うが、将来的にどのくらいの規模感で活動を行っていこうと考えているのか。
団体	1回の開催における参加人数は30人程度が限界と考えている。月に2~3回実施する規模であれば、継続的な活動が可能かと考えている。
委員	講師謝礼は具体的にどのような算定基準で行っているのか。
団体	講師の謝礼基準に従って算定を行っている。現時点で3回中2回の講師は調整がついている。
委員	令和4年8月1日から令和5年3月末までの補助対象期間中に、どのくらいの家庭ごみが減少することを想定しているか。
団体	事業全体での具体的な数字の想定は行っていないが、これまでに自分が実践してきた経験から考えると、2回出していた生ごみが1回になる程度の減少が見込める。今回の活動は具体的に生ごみを減らすことにつながるといふ面もあるが、まずは参加者に生ごみを減らす方法を知っていただいて、その後の意識の変化につなげていきたいと考えている。
委員	福岡市はマンションが多いため、バルコニーのプランターで野菜づくりを行いたいという要望も多いと思われるが、そうした方を想定した取組みはあるか。
団体	バルコニーでも簡単な野菜であれば作ることができるので、ワークショップの中で説明していきたいと考えている。参加者の方に一部たい肥の提供などを行うことを検討するなど、生ごみの減少と野菜作りを提案していきたいと考えている。
委員	市の補助金事業であるため、漠然と環境に良いという活動ではなく、どのくらいのごみが削減できるか、どういった組成の生ごみを活用するかといった具体的な想定がされていないと、適正に事業を評価することが難しい。また西区を拠点にされているのであれば、西部3Rステーションで長年コンポストを実践されている先達の団体とネットワークをつなぐなどの協力を得つつ、具体的なデータを取りながら進めていく必要がある。 また、市民への啓発効果や還元性から考えると、参加者の属性やアンケートを取るなど、今後の活動の定量的な効果ははかれるものを活動の中に取り入れるべきである。
団体	了解した。

委員	印刷宣伝広告費が少し高い。事業の規模からも凝ったチラシである必要はなく、今はネット上で安く簡単に作成することも可能であるため、費用のかけどころを再度検討いただきたい。広告宣伝の費用を一部コンポスの基材などに変更することで、より多くの人に取り組んでもらう事業の実施につながるのではないか。
団体	了解した。

<委員による評価>

(以下、情報公開条例第7条第4号により非公開)